大分大学医学部 薬剤学講座

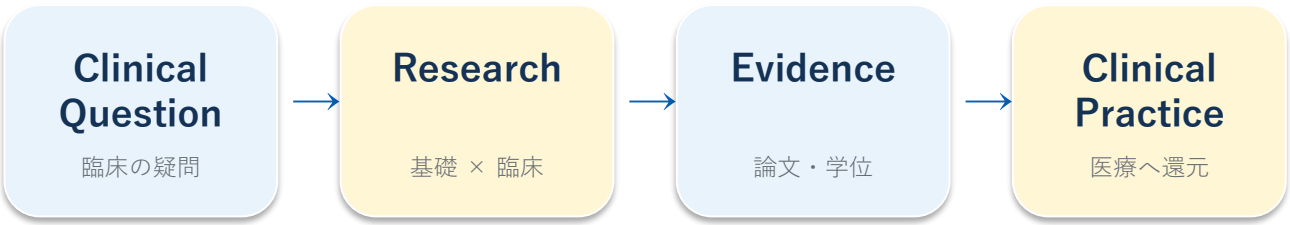
社会人大学院生募集

OITA UNIVERSITY

臨床の「なぜ？」を、研究へ。

働きながら、臨床を変える研究者になる。

日々の薬剤師業務から生まれる Clinical Question を、
基礎と臨床の両面から科学的に解き明かし、
新たなエビデンスとして医療現場へ。



Clinical Question から始まる医療薬学研究
— 基礎と臨床をつなぎ、個別化医療へ —

OITA UNIVERSITY

Clinical Questionから、個別化医療へ。

薬剤師は、日々の臨床の中で多くの「なぜ？」に出会います。

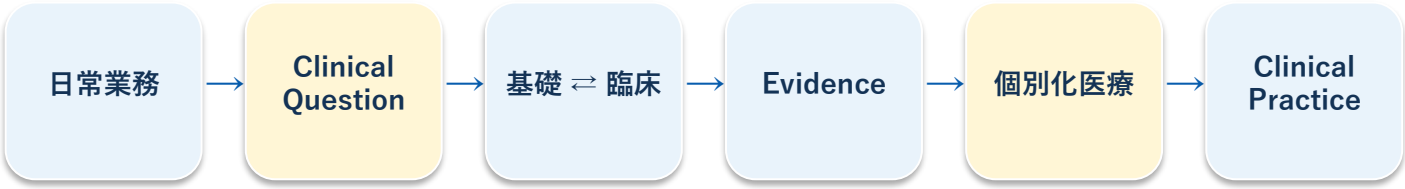
“ 同じ投与量なのに、なぜ血中濃度が違うのか ”

“ なぜ、この患者では副作用が強く現れるのか ”

“ 治療効果の違いを事前に予測できないか ”

本講座では、こうした日常の薬剤師業務から生まれるClinical Questionを研究の出発点とし、薬物動態・薬力学・薬理遺伝学（PK/PD/PGx）を中心に、基礎・臨床の両面から研究を展開します。

研究のための研究ではなく、一人ひとりの患者に最適な薬物療法を届けるためのエビデンスを創出し、その成果を医療現場へ還元することを目指します。



Clinical Question → Research → Evidence → Clinical Practice

**基礎と臨床を往還し、
個別化医療につながる実践的エビデンスを創出する。**

OITA UNIVERSITY

一つの問いを、多角的に解き明かす。

Clinical Questionに応じて、最適な研究手法を組み合わせます。

01 バイオマーカー

生理活性ペプチド等を用いた病態評価・薬効予測・副作用予測

治療反応を「見える化する」

02 薬物代謝・トランスポーター

内因性基質を用いた薬物代謝酵素・トランスポーター活性評価
4β-ヒドロキシコレステロール／コプロポルフィリン-I

体内動態を「測る」

03 免疫抑制薬

細胞内外動態・結合タンパク質に着目した新規薬物動態制御理論

新しい薬物動態を「発見する」

04 抗悪性腫瘍薬

母集団薬物動態解析、PK/PD/PGx解析による有害事象機序と至適投与設計

効果と副作用を「読み解く」

05 感染症薬

特殊病態下のPharmacometrics、遊離型薬物濃度、TDM・PK/PD解析

適正投与を「予測する」

PK × PD × PGx × TDM × Biomarker × Pharmacometrics

研究手法からテーマを決めるのではなく、問いに最適な方法を選択する。

OITA UNIVERSITY

臨床と研究をつなぐ、5名の教員。

大学病院の臨床現場に根ざし、基礎・臨床の両面から大学院生の研究を支援します。

HI 伊東 弘樹

教授／薬剤部長／博士（薬学）

薬物動態・医療薬学研究を統括
臨床課題を起点とした研究展開と研究者育成

RT 田中 遼大

准教授／副薬剤部長／博士（薬学）

Pharmacometrics・PK/PD・TDM
薬物動態解析と個別化投与設計

NY 吉川 直樹

准教授／副薬剤部長／博士（薬学）

免疫抑制薬・TDM・PK/PD
細胞内外薬物動態と個別化医療

TS 炭本 隆宏

助教／主任／博士（医学）

がん薬物療法・TDM・分析科学
TKI・薬物代謝／トランスポーター研究

ST 田代 渉

助教／博士（薬学）

感染症薬・PK/PD・Pharmacometrics
特殊病態下の薬物動態と適正投与

研究テーマの相談から、研究計画・解析・論文化・学位取得まで継続的にサポート。

OITA UNIVERSITY

臨床の疑問から、博士論文へ。

直近の博士（医学）学位取得実績

2026
博士（医学）

小野 寛之

内因性基質からOATP1B活性を捉える

Relationship of plasma 3-carboxy-4-methyl-5-propyl-2-furanpropanoic acid concentration with OATP1B activity in patients with chronic kidney disease

2026
博士（医学）

末繁 嘉朗

「遊離型」レンバチニブ濃度から個別化治療へ

Sensitive quantification of free lenvatinib using ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry and the clinical significance of measuring free lenvatinib concentration

2025
博士（医学）

龍田 涼佑

消化管ペプチドから抗がん薬の有害事象を読み解く

Association of chemotherapy-induced nausea and vomiting or anorexia with plasma levels of five gastrointestinal peptides in patients receiving chemotherapy

2023
博士（医学）

炭本 隆宏

抗がん薬TDMを支える高感度分析法を開発

Development of a Sensitive and High-Throughput Assay for Simultaneous Quantification of 5 Tyrosine Kinase Inhibitors and 2 Active Metabolites in Human Plasma Using Ultra-high Performance Liquid Chromatography Coupled to Tandem Mass Spectrometry

Clinical Question → 研究計画 → 学会発表 → 英文原著論文 → 博士（医学）

OITA UNIVERSITY

研究成果を、世界へ。

英文原著論文と国際学会を通じて、研究成果を世界へ発信。

From Oita to the World

Singapore	Netherlands	Canada	USA	Norway
IATDMCT	EACPT	IATDMCT	ASCPT	IATDMCT

OITA

国際誌への継続的な成果発信

- Therapeutic Drug Monitoring
- British Journal of Clinical Pharmacology
- Pharmaceutical Research
- Clinical Pharmacology & Therapeutics

国際学会での研究発表

OATP1B、感染症薬TDM、遊離型レンバチニブ、タクロリムスなど、講座の主要研究テーマを国際舞台で発信しています。

研究成果を「発表する」だけでなく、

世界の研究者と議論し、次の問いへ。

OITA UNIVERSITY

大学院から、研究者としての次のステージへ。

博士号取得をゴールではなく、自立した研究者への通過点に。

Clinical Pharmacist（臨床経験） → Clinical Question（問いを立てる） → Graduate Student（研究を学ぶ） → Paper / Ph.D.（成果・学位） → Research Grant（研究費獲得） → Independent Researcher（研究を創る）

競争的研究費を獲得し、研究を継続・発展させる

4課題	4課題	1課題	2課題
基盤研究(C)	若手研究	研究活動スタート支援	奨励研究

2026年度 科研費採択・継続課題

「研究に参加する薬剤師」から
「自ら研究を生み出す薬剤師」へ。

科研費に加え、財団・学会・学内助成などを活用し、Clinical Questionを継続的な研究テーマへ発展させます。

OITA UNIVERSITY

臨床を続けながら、研究者として成長する。

臨床を続けているからこそ、見つけられるClinical Questionがあります。

薬剤師として培ってきた経験を研究資源に変え、学位取得だけでなく、英文論文・国際学会・次の研究へつなげます。

こんな方に

- 日常業務に検証したい疑問がある
- 学会発表を英文原著論文へ発展させたい
- PK/PD・TDM・Pharmacometricsを本格的に学びたい
- 基礎研究にも挑戦したい
- 博士（医学）を取得し、研究者として成長したい
- 将来、大学教員・実務家教員として薬学教育・研究に携わりたい
- 臨床経験と研究力を生かし、次世代の薬剤師・薬学生を育てたい

Research Abroad

世界で学ぶ機会も。

大分大学医学部・医学部附属病院では、国際学会発表や短期・長期留学を支援する制度が設けられています。

薬剤師も制度を活用し、海外で研究成果を発表しています。

修了者の声

薬剤師としてがん医療に携わるなかで生じた臨床上の疑問を、自ら研究として解決し、その成果を患者さんに還元できる力を身につけたいと考え、社会人として大学院へ進学しました。仕事との両立に不安もありましたが、指導教員の助言を得ながら計画的に研究を進め、学位を取得することができました。現在は助教として、臨床に加えて研究や学生教育にも携わっています。大学院で培った、課題を多角的に捉え科学的に検証・発信する力を生かし、今後もより良い医療と次世代の人材育成に貢献していきたいと考えています。

炭本 隆宏　博士（医学）

臨床を手放すのではなく、臨床を研究者としての強みに変える。

そのClinical Question、研究してみませんか。

OITA UNIVERSITY

研究テーマが完成している必要はありません。

「日々の業務の中で気になっていることがある」
「研究には興味があるけれど、何から始めればよいかわからない」
「これまでの学会発表を論文にしたい」
「働きながら博士号取得を目指したい」

その段階から、ご相談ください。
あなたが臨床で感じている「なぜ？」には、まだ誰も知らないエビデンスが隠れているかもしれません。

Clinical Questionを、Evidenceへ。
Evidenceを、次のClinical Practiceへ。

大分大学医学部 薬剤学講座

大学院医学系研究科　社会人大学院生　研究・進学相談受付中

講座Webサイト
https://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/koza.html

〒879-5593
大分県由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番地
大分大学医学部 薬剤学講座
TEL ： ０９７－５８６－６１０１
FAX ： ０９７－５８６－６１２０
e-mail ：yakub@oita-u.ac.jp

発行：2026年9月1日